

エネルギー・セキュリティ学
Energy Security

エネルギー・セキュリティ学

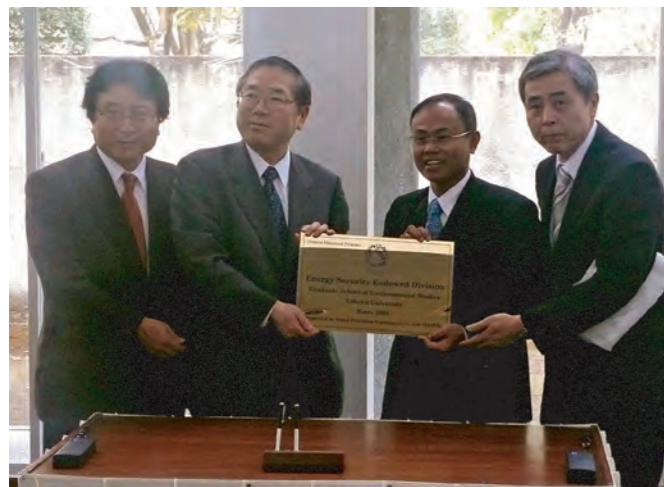
Energy Security

教授 木村 喜博

Professor
Yoshihiro Kimura



The academic focus of this program is on field of "Energy Security", studying production technology of fossil and renewable energies for sustainable development within the framework of interdisciplinary integrated studies of engineering and social sciences. The main aim of this educational program is to foster experts and leaders who could take an active part in the "Energy Security" problems from the aspects of advanced high technology, policy planning and management, on the international and domestic levels at present as well as in the foreseeable future.



Unveiling of plaque at the opening ceremony.



In front of the division office.

本講座は、世界的なエネルギー需要の増大と地球温暖化等の地球規模の環境問題を、工学および社会科学の観点から俯瞰して、日本を含むアジアのエネルギーと社会との関わり、環境調和型の新たな社会構築のありかたについて、また、地球環境と調和した社会の持続的な発展のための化石エネルギーおよび再生可能エネルギーの生産技術に関する教育と研究を行うため、工学および社会科学分野を融合させ、日本とアジアのエネルギーの安全保障に関する学際的な教育と研究を行うことを目的とし、大学院教育と研究を同時に行うプログラムための海外拠点（サテライトキャンパス）として、インドネシア共和国 バンドン工科大学(ITB) キャンパス内に設置された石油資源開発株式会社による寄付講座である。このような日本と同じカリキュラムで海外に展開する大学院プログラムを国立大学法人が実施することは本邦初の試みである。サテライトキャンパスには、教員が常駐して業務を行うためのオフィス・セミナー室のほか、試験研究を行うための実験室も開設され、ITBの協力のもと、エネルギー資源の有効利用に関する研

究開発体制が構築されている。

本講座の開所式は、6月4日、東北大学とバンドン工科大学との大学間協定調印式に併せてバンドン工科大学キャンパスセンターにおいて執り行われた。式典には、日本より井上明久総長、谷口尚司研究科長ならびに中山一夫石油資源開発(株)常務執行役員が臨席され、本講座の銘を記したプレートが井上総長、Djoko Santoso ITB学長の手で除幕され、本講座の発足が宣言された。

2008年度後期より、博士前期課程2名、後期課程1名の大学院生が入学し、最初の授業が10月からスタートした。

仙台本校から6名の教授、准教授が相次いでITBに赴き集中形式での講義が実施されると共に、サテライト常駐教員による講義科目も開講した。次セメスターからはITBからの客員講師による講義科目も開始される。また、仙台本校より移設した超臨界条件まで使用可能な連続式水熱反応装置による試験研究も始まっており、インドネシアにおけるエネルギー物質有効利用のための技術開発研究の成果が期待される。



准教授
木下 睦
Associate Professor
Atsushi Kishita



The first lecture of this program ("Introduction to Environmental Studies" by Assoc. Prof. Kazama).



An experimental apparatus for the hydrothermal conversion of organic materials in laboratory.



A seminar performed at Bandung satellite.



A snapshot of before starting a lecture in ITB campus.

国際交流

木村教授がダマスカス大学(シリア)より招へいされ、客員教授として11月上旬より1ヶ月間ダマスカスに滞在し、日本語学科において講義を担当した。

木下准教授がIATMI (Indonesian Association of Petroleum Engineers) workshop "Production Continuity Breakthrough 2008" (August 12-15, Bandung) において超重質原油の利用促進技術に関する招待講演を行った。

また、8月8-10日には、木下が中国吉林省松原市中国石油天然汽総公司吉林石油分公司を訪問し、同社が現在推進中の微生物を利用した石油増進回収技術の商業プロジェクトについて、意見交換、施設の見学を行った。



Prof. Kimura with students of Damascus university.